東進 志作文コンクール 中学部門 作文用紙

作成日 2022年 08月 19日

校舎名 横浜 校
生徒番号
学校名 桜蔭中学校
学年 中2
氏名 長澤 咲歩

（課題について1200字以上でまとめてください。できるだけ濃く、大きな字を書いてください。）

思い返せば、最初に「将来の夢」について考えたのはいつのことだっただろう。幼稚園のときに、マリー・キュリーの伝記を読んで、「私もノーベル賞をとりたい、研究者になりたい」と思った時かもしれない。ポロニウム、ラジウムといった耳慣れない名前の物質のすがたを想像して憧れたり、自分が見つけた元素に名前を付けられるとしたら何と名付けようかなんて考えたり、胸を膨らませていた。

それから私はずっと、「突き詰めて考えること」が好きでいた。小学校の自由研究では星座、プリズム、貝、素数など自然科学について研究し、それを伝えることも含め徹底的にこだわりつくした。ある意味、私はそのころから「こだわる」ことが好きだったのかもしれない。

研究、ということに付随していえば、昨年つくばSKIPアカデミーというプロジェクト、ジュニアドクター育成塾に参加させてい

ただいた経験が私のたいせつな糧になっている。大学の設備で私の実験をさせて頂いたことに加え、「導電性高分子の発見と発展」の研究でノーベル化学賞を受賞された白川英樹先生のご講演を拝聴することまででき、とても楽しい一年間だった。私は個人研究で地震の振動について実験したのだけれど、そのときに実験の計画から実行までの全てを綿密にこなすことの大変さと、同時にその楽しさを体感した。そのときにより一層、好きなことを仕事にしたい、私の研究者になりたいという思いが固まったのだ。

「研究者」といってもいろいろあって、一概には言えないとはわかっている。現時点で構想を練っているのは、アルゴリズムやその考え方を利用した研究開発だ。私は今、C++という言語を用いてプログラミングに取り組んでいる。競技としてのプログラミングも勿論企業や研究施設など現場での実装にも興味がある。「ある問題の答えを調べ上げていく」という一つの問題に向き合うとしても、アルゴリズムの考え方を考慮すると二分探索、深さ優先探索、幅優先探索など様々なものがある。一つ一つの結果が独立している場合には二分探索を利用し、いくつもの分岐がある場合には幅優先探索を利用するなど、工夫のし甲斐があるはずだ。

そんなこの夢・志をかなえることで、私は日本に、そして世界に貢献したいと思っている。研究で日本の技術産業や研究開発に対す

る気運を高め、成果を出すことによって国内の人材を育成するプロジェクトを発案し実現させたい。複数分野の最先端技術の融合などオープンイノベーションも期待できる「大規模な研究都市に民間企業や大学などの多様な研究機関を充実させ、支援を行う」という構想だ。

コロナ然り、大規模な有事に対応できるのはやはり国力のある国である。私自身が技術力向上の一助となることによって、日本の経済力にも寄与できるのではないかと思う。20年後、30年後の地球では、きっとメタバースが今よりもっと活用され、仮想空間で過ごす時間が日常生活における大部分を占める世界が訪れる。仮想空間上での自分が現実の世界に並ぶ一つの人格として成り立つ世界になるだろうとも考えわくわくしている。そして、ITの知識が必要な世の中になり、プログラミングのスキルがより重点的に教育されるようになると私は確信を持っている。その世界で働く私がそのスキルを早くから身に着けることで、これからの時代で活躍でき、選択肢が広がる。さらに、教育する側に立つことさえできるはずた。現実に、プログラミングを若い世代が担っていくということは私が受講してきたプログラミング講座のチューターのほとんどを大学生、大学院生が占めていたことによっても実証することができる。教育を充実させることによって日本人がプログラミングにおいて他国に後れを取らないこと。再三言

われていることではあるけれど、それがこの日本という国が未来を生き抜いていく上での最低条件であると私は思う。

夢・志に向けて、現在進行形で受講しているプログラミングの夏季セミナーでは、同世代のライバルたちと一緒に難しい課題と日々向き合っている。プログラミングが私の性分に合っているのかとても楽しく飽きが来ないし、それが私の未来図をいろどっていくのだと思うと俄然やる気がわいてくる。これからも、やりたいことを突き詰めて、こだわって、夢をかなえたい。